

第3学年 英語科 学習指導案

日時：平成20年11月20日（木） 5校時
場所：3年1組教室
学級：3年1組（男15名、女17名、計32名）
授業者：教諭 濱田 弥

1 単元名 Unit 6 20th Century Greats (東京書籍 NEW HORIZON English Course BOOK3)

2 単元について

(1) 系統性

本単元では、英語特有の様々な後置修飾の形が勢揃いする。1年時に学んだ前置詞を用いた後置修飾をはじめとして、不定詞や分詞の後置修飾等、これまでに学んだ形を復習しながら、接触節と関係代名詞の用法につなげていく。

(2) 教材について

本題材は、20世紀の偉大な人物たちを話題にする。科学者であり作家としても有名になったレイチェル・カーソンについての業績の一部をもとに、彼女の生涯について学ぶ。単元のまとめとして、数人の偉人の中から一人を選び、本文のレポートのまとめ方を参考に、接触節や関係代名詞等を使用させながら全員にオリジナルの英文レポートを作成させたい。その取り組みの中で、今まで知らなかったその人物についての情報を全体で共有し、その人物が現在に残している貴重な功績を認識させたい。

(3) 生徒について

4月に行われたNRT検査の結果、3年1組の偏差値は45%で、32人中5段階評価の2が17名、1が2名おり、クラスの半数を占めた。年度当初は約半数の生徒が音読やコミュニケーション活動に消極的だったが、その後、学習過程を工夫しながら「読むこと」「話すこと」を強化し、進歩感をもたせてきた結果、大多数の生徒が課されたタスクに必死に取り組み、ペア活動等にも積極的に臨むようになったきた。

また、先に行われた学習定着度状況調査の結果は次の通りである。

観 点	3-1 正答率	県平均
聞くこと	77.0%	78.9%
読むこと	51.3%	59.4%
書くこと	21.7%	29.7%

授業の中で書く時間を確保してきたほか、Gアップシート等の宿題を毎回出し、家庭学習の定着も図ってきたが、今なお「書くこと」を不得手とする生徒が少なからずいる。本単元のStarting Outにおける自己表現活動、及び単元のまとめとしての英文レポート作成に取り組みせ、書く活動を通して既習文型を再度想起させるとともに、それらを駆使し、さらに語彙力・表現力を向上させたい。

(4) 指導にあたって

これまでと同様に、新出文型の口頭練習や本文の音読練習と暗唱・暗写練習の際にペアを組ませて支え合い、補い合う関係作りに努めさせる。接触節の学習では、単に文型の練習にとどまらず、「自分にとって大切な物を英語で紹介する」活動の中でその文型を使わせること、そして班内でリハーサルを行わせアドバイスをし合った後、全体の場で自信をもってプレゼンテーションさせたい。20世紀の偉人レポート作成においてもペアで一つの作品を完成させ、全体の場での暗唱発表までもっていききたい。

(5) 校内研究との関わり

本校英語科では、本校研究主題「自ら意欲的に学習する生徒の育成～基礎・基本の定着とそれを活用する学習過程の工夫を通して～」にせまるため、自ら意欲的に学習する生徒を育てる次の

5つの視点を強く意識して授業を展開してきた。

- ① 興味、関心が持てる・・・生徒の身近な話題、活用場面を意識した課題を設定する
- ② 目的意識が持てる・・・今日の授業では何ができればよいのかが明確にわかるようにする。
- ③ 予想・見通しが立てられる・・・大きなゴールを達成するための細かなゴールを1つ1つクリアすることで大きなゴールに到達するという見通しを持たせる。
- ④ 所属感・貢献感・・・学習形態（ペア、班、全体）を工夫し、互いに支え合い、励まし合う関係作りに努めさせる。
- ⑤ 進歩感・成就感が持てる・・・できた、できつつある状況を褒めるとともに、できない生徒にもできるまで教え、励まし、最後に褒めて終わること。

英語科では学習過程におけるコミュニケーション活動を「基礎・基本の活用場面」ととらえ、実際場面を意識した活動を行わせることにより、授業が、単に体系化された知識、技能をひたすら享受する場ではなく、生徒が他者と協力して意欲的に課題解決する能動的な場になり、それを継続することによって基礎・基本が定着するものと考え。本単元においては、後置修飾の文型がよく使われる場面を把握させ、その活用を通して定着を図りたい。

3 単元の目標

(1) 指導目標

接触節や関係代名詞の用法を理解し、興味をもった人や物について、積極的に英語で表現することができる。

(2) 単元の評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

★接触節や関係代名詞を用いて、積極的に意思疎通を図ることができる。

【英語で表現する能力】

★接触節や関係代名詞を用いて、自分の考えを相手に正しく伝えるように話し、書くことができる。

【英語を理解する能力】

★接触節、関係代名詞を用いて伝えられた文の内容を理解することができる。

★本文の英語を聞いたり読んだりしながら、要点を把握することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

★接触節や関係代名詞を使用する場面を理解し、語順のルールをふまえて正しく伝えることができる。

★レイチェル・カーソンの人柄や生涯について理解することができる。

★20世紀に功績を残した偉人について調査し、自分の生き方に活かすことができる。

4 単元の指導計画と具体の評価規準 全8時間 (本時 1 / 8時間)

時数	学習活動	評 価 規 準			
		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1 (1.5)	【Starting Out】 ・接触節の用法を理解し、簡単な表現ができる。 ・「自分にとって大切な物」をテーマに、接触節を用いて自己表現ができる。	・接触節を用いて、積極的に自己表現しようとしている。	・「自分にとって大切な物」について、聞き手に正しく伝わるように書き、発表できる。	・仲間の発表を聞き、その内容を正しく聞き取ることができる。	・接触節の形・意味・用法を理解することができる。
2 (1.0)	【Dialog】 ・関係代名詞 who を用いた「追加説明」の用法を理解し、簡単な表現ができる。	・様々な職業について、関係代名詞 who を用いて積極的に相手に説明しようとしている。	・様々な職業について、関係代名詞 who を用いて正しく説明することができる。	・関係代名詞 who を用いた文章を正しく理解することができる。	・関係代名詞 who を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。
3 (1.5)	【R.C.①】 ・レイチェル・カーソンの主な業績について知る。 ・関係代名詞 that (which) を用いた「追加説明」の用法を理解し、簡単な表現ができる。	・関係代名詞 that [which] (主格) を用いて、様々な物について積極的に説明しようとしている。	・本文の内容についての英語の質問に正しく答えることができる。	・関係代名詞 that [which] を用いた文章を読み、正しく理解することができる。 ・本文の内容を正しく聞き取ることができる。	・関係代名詞 that [which] (主格) を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。
4 (1.5)	【R.C.②】 ・カーソンの生涯について知る。 ・後ろに節がくる関係代名詞 that の用法を理解する。 ・レポートのまとめ	・関係代名詞 that (目的格) を用いて、様々な物について積極的に説明しようとしている。	・本文の内容についての英語の質問に正しく答えることができる。	・関係代名詞 that (目的格) を用いた文章を読み、正しく理解することができる。 ・本文の内容を正しく聞き取ることができる。	・関係代名詞 that (目的格) を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。 ・人物事典を読んで、内容を理解し、その情報にもとづいてレポートを完成することができる。
5 (2.5)	【まとめ】 ・20世紀の偉人についてのレポートを作成し、発表することができる。	・20世紀の偉人について意欲的に調査し、積極的に発表することができる。	・既習の文法事項を駆使し、調査内容について、正確に書くことができる。	・レポートの発表を聞き、その内容を理解することができる。	・20世紀の偉人たちの生き方を知り、自分の考え方・生き方に活かすことができる。

5 本時について

(1) 本時の目標

- ・接触節の形・意味・用法を理解し、様々な物について説明することができる。
- ・「自分にとって大切な物」を簡単な英文に表し、発表することができる。

(2) 学習内容と具体的な評価規準・支援

学習内容	評価規準	具体の評価		規準の内容を実現していない生徒への対応・手立て
		十分満足できる状況	概ね満足できる状況	
・接触節を用いた文の口頭練習	・接触節を用いて様々な物を説明することができる。【言語】	・適度な速度で、正しく説明できる。	・多少の誤りはあるものの、おおよそ正しく言うことができる。	・ルールを再度確認し、理解を深めさせ、正しく言えるよう支援する。
・自己表現活動	・「自分にとって大切な物」を英語で書くことができる。【表現】	・相手に確実に伝わるような英文を7文以上書くことができる。	・自分の伝えたいことを5～6文書くことができる。	・積極的に働きかけ、つまづいている部分を発見し、具体的にアドバイスをする。
・自己表現活動	・書いた英文を発表することができる。【関心・意欲・態度】	・明瞭な発音と速さ、アイコンタクトをとりながら積極的に自己を語るすることができる。	・作成した英文を多少見ながらも積極的に発表することができる。	・できるだけ暗唱を促しつつも、書いた英文をしっかりと発表できるよう練習させる。

(3) 本時の展開

	学習活動と5つの視点	学習内容及び学習活動	○ 具体の評価規準 * 対応・手だて
導入 5分	1 あいさつ 2 Warm-up 3 新出文型導入 【興味・関心】 4 学習課題確認 【目的意識】	1 あいさつ 2 Rapid Fire 3 新出文型の形を発見し、意味を考える I'll introduce you my important thing. This is the picture I got from my child ...etc	
<p>～Today's Goal～ 自分の大切な物や紹介したい物を、みんなに英語で伝えよう！</p>			
展開 40分	5 新出文型の口頭練習 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">基礎・基本</div> 6 実践的コミュニケーション活動 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">活用場面</div> 【所属感・進歩感】	5 接触節の用法を理解し、口頭練習を行う 6 「大切にしている物」について、接触節を用いながら英作文を行い、発表する 班内の他の生徒の発表を聴き、良い点と課題を見つけ、メモする 発表を聴いて感じたことを全体で共有し、発表者の努力と勇気を全体で認める	○文型の特徴を理解し、正しく発音できたか【言語・文化の知識・理解】 *上手く発音できない生徒には教師がもう一度英文を発音して繰り返させる ○自分の伝えたいことを整理しながら、できるだけ多く正しく書こうとしているか【表現】 *英作文につまづいている生徒には、即座にアドバイスをする ○自分の伝えたいことを積極的に伝えることができたか【関心・意欲・態度】
終結 5分	7 復習の内容と方法を把握する 8 あいさつ	7 宿題を確認する	